

2025年度
小論文
(公募制)

2024年11月17日実施
獣医学部 グリーン環境創成科学科

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【注 意 事 項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に**受験番号**および**氏名**を記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙はともに机上に置いておくこと。持ち帰ってはいけません。

(余 白)

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

新型コロナウイルスがまん延したことで、改めて日本におけるデジタル化の遅れが話題になりました。ただ「デジタル化の遅れ」と言われても、それを実感している日本人は少ないのではないのでしょうか。だから政府が「デジタル庁」の創設と言っても、どこか他人事のように聞こえていて、「デジタル化」は何のために、なぜ重要なかがわかっている人は一握りのように思います。なぜなら「デジタル化」しなくても、多くの日本人は現状不自由なく生活できているからです。

「デジタル化」とセットにして、日本ではマイナンバーカードの普及について語られます。2021年10月1日時点で日本全体のマイナンバーカードの交付率はわずか38.4%。既に健康保険証としての利用も可能となっていますが、まだ受け入れる病院側で対応しきれておらず、利用できる病院が少ないのが現状です。そうすると国民の多くは今持っている健康保険証でいいじゃない、となるわけです。

マイナンバーカードは、2024年度末には免許証としての利用も可能になるとのことですが、健康保険証と免許証の「カード」が2枚減るだけと冷めた見方もできます。さらに銀行口座と紐付けられると、個人情報の漏洩のリスクが余計に高まる、と懸念される方も多いことでしょう。ただし個人情報の漏洩の観点から見れば、脆弱な旧来型のインフラで管理され、それが複数に分散している方が漏洩リスクは高いわけで、ひとつにまとめて最新のインフラで管理された方が漏洩リスクは低いことになります。ちなみに私のような人間は、マイナンバーカードを物理的な「カード」として発行する時点で、「デジタル」じゃないと思っています。

〔出典：宇野 仙『SDGsは地理で学べ』（筑摩書房）初版2022年10月10日 p107－108〕

設問 デジタル化が今後様々な分野で進められるが、環境保全のためのデジタル化とはどのようなことが想定されるか、あなたの考えを800字以内で述べなさい。